2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の瑞希（みずき）は、バドミントン部でダブルスを組む千夏（ちなつ）と、最後の地区大会にのぞむ。ところが、大会を五日後にひかえた練習試合で、前衛の千夏は大事な場面でミスを重ね、瑞希との会話も減っていった。

体育館に、シャトルが床を打つ軽い音がひびいた。千夏のラケットは、またシャトルの下をむなしくくぐった。相手チームの小さな笑い声が起こり、ベンチの後輩たちは目を伏せた。

「ごめん。」

千夏はコートの白い線をにらむようにして言った。瑞希は「ドンマイ。次、次。」と声をかけたが、その言葉は、①自分でも驚くほど軽く、空っぽに聞こえた。

試合は負けた。片づけのあと、千夏がぽつりと言った。

「大会、ペアを組みなおしてもらおうよ。一年の美咲のほうが、瑞希と合うと思う。わたしがいると、足を引っぱるだけだから。」

「何言ってるの。」思ったより強い声が出た。千夏は笑ってみせたが、その笑顔は、②口もとだけで作られたものだった。小学生のころから、瑞希の隣でラケットをふってきた千夏。強く打ちこむ瑞希の球を、いつもぎりぎりで拾って返してくれたのは千夏だった。その千夏が、いま、足もとの床ばかり見ている。

その夜、瑞希は励ます言葉を探したが、どれも借り物のようで、口にする前に消えてしまった。

翌朝、瑞希は早く体育館へ行き、ひとり壁打ちをする千夏の前に立った。

「美咲とは組まない。わたしは、千夏と出たい。」

「でも……。」

「ほんとはね、昨日、何も言えなくて、こわかった。千夏が離れていく気がして。」瑞希は、③ラケットのグリップを握りなおした。「だからお願い。わたしが思いきり打つから、千夏は、いつもみたいに拾って。」

千夏は目を見開き、それからゆっくり笑った。今度は、目もとまで笑っていた。

「……わたしも、瑞希の打つ球を追いかけたい。」

二人はネットをはさんで向かい合い、ラリーを始めた。シャトルは、④白い弧を描いて、二人のあいだをゆるやかにいききした。窓からさしこむ朝の光の中で、シャトルは、一度も床に落ちなかった。

（注）ドンマイ……「気にするな」と相手をはげます言葉。　壁打ち（かべうち）……壁に向かってシャトルを打ち、ひとりで行う練習。　ラリー……シャトルを打ち合って続けること。

問1 ①「自分でも驚くほど軽く、空っぽに聞こえた」とありますが、このときの瑞希の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア千夏を励まそうとしたのに、心がこもらず言葉が上すべりしていることに気づき、とまどっている様子。

イ千夏のミスに内心あきれ、わざと軽い調子で言って、冷たく突き放そうとしている様子。

ウ負けが続いて疲れ果て、もう声を出す気力も残っていないと感じている様子。

エ後輩たちの目が気になり、無理に明るくふるまってごまかそうとしている様子。

問2 ②「口もとだけで作られたもの」とありますが、このときの千夏の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア瑞希に心配をかけまいと笑ってみせているが、内心では、自分への失望や申し訳なさを抱えている。

イ瑞希が自分をかばってくれたことがうれしく、照れかくしに笑っている。

ウペアを組みなおす案を瑞希が受け入れてくれたと思い、ほっとして笑っている。

エ負けたことは気にしておらず、すでに次の試合に気持ちを切りかえて笑っている。

問3 瑞希は「美咲とは組まない。わたしは、千夏と出たい。」と言いました。瑞希がそのように言ったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、思いきり、拾うの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。なお、「拾う」は「拾って」のように形を変えて使ってもかまいません。（6点）

問4 ③「ラケットのグリップを握りなおした」とありますが、このときの瑞希の気持ちを説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア弱音を打ち明けた気恥ずかしさをこらえ、自分の本心を千夏にしっかり伝えようと、気持ちを奮い立たせている。

イ千夏が申し出を受け入れてくれないことに腹を立て、強い口調で説得しようとしている。

ウこれから始まる練習試合にそなえて、ラケットの調子を確かめようと冷静になっている。

エ美咲に気持ちが傾きかけていたことを悔やみ、千夏に謝る覚悟を決めている。

問5 ④「白い弧を描いて、二人のあいだをゆるやかにいききした」で始まる、本文の結びの二つの文には、どのような効果がありますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

アシャトルが一度も落ちない様子を描くことで、冒頭の失敗の場面と対比させ、二人の息が合い、心が通い合ったことを印象づけている。

イ朝の光の描写によって、大会での勝利がすでに約束されていることを暗示している。

ウシャトルの動きを細かく描くことで、瑞希の技術が千夏よりすぐれていることを強調している。

エ冒頭と同じ表現をくり返すことで、二人の関係が最初から何も変わっていないことを示している。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「ごめん。」「ドンマイ。次、次。」など、短い会話をつなぐことで、気まずい雰囲気を伝えている。

イ「口もとだけで作られた」笑顔と「目もとまで笑っていた」笑顔を対比させ、千夏の気持ちの変化を示している。

ウ本文は瑞希の視点から語られ、千夏の気持ちは、ことばや表情を通して描かれている。

エ本文の途中で、瑞希の小学生時代の思い出が長く挿入され、物語の時間が前後しながら進んでいる。

オ結末は、二人が美咲を交えて三人で練習を始める場面で終わっている。

2

問1⑴ 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

自由には責任が伴う。（読み）

問1⑵（各2点） 思わぬ伏兵に足をすくわれた。（読み）

問1⑶（各2点） 時間にヨユウをもって行動する。（書き）

問1⑷（各2点） 最後までケントウした選手をたたえる。（書き）

問2 次のア～カの語の中から、用言（活用する自立語）であるものをすべて選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア大きな
イ豊かだ
ウゆっくり
エ読む
オ山
カ暖かい

問3 次のア～エの――部の中から、品詞が形容動詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア大きな建物がそびえ立つ。
イきれいな花が庭に咲いている。
ウおそろしい話を聞いてしまった。
エとても寒い朝だった。

問4 次の俳句の季語とその季節の組み合わせとして最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

荒海や佐渡によこたふ天の河　（松尾芭蕉）

ア荒海―冬
イ天の河―秋
ウ天の河―夏
エ佐渡―春

問5 次の文には、主語と述語の関係がうまく対応していない部分があります。これを正しく直した文として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

わたしの夢は、将来、医者になって人の役に立ちたい。

アわたしの夢は、将来、医者になって人の役に立つことです。
イわたしの夢は、将来、医者になって人の役に立ちたいと思います。
ウわたしの夢が、将来、医者になって人の役に立ちたいです。
エわたしの夢は、将来、医者になり人の役に立ちたいという。

問6 次の文の――部の「れる・られる」と同じ意味で使われているものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

校長先生が式辞を述べられる。

ア山道で急に雨に降られた。
イ子どものころのことが思い出される。
ウひとりで朝早く起きられる。
エ先生が教室に入ってこられる。

問7 国語辞典に見出し語がのっている順に並べたとき、次のア～エの語は、最初から数えて何番目になりますか。「3番目」になるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア品（ひん）
イパン（ぱん）
ウ番（ばん）
エ班（はん）

問8 M中学校の生徒会では、「あいさつ運動」について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、〔　Ⅰ　〕にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

【話し合いの様子】

司会「今日は、あいさつ運動をどう進めるかを決めます。まず、案を出してください。」

田中「朝、校門に立って声をかける案です。全校生徒に直接呼びかけられます。」

小川「いい案ですが、朝は部活動の朝練習があって、集まれない人も多いのではないでしょうか。」

司会「〔　Ⅰ　〕では、朝に集まれない人は、昼休みの放送で呼びかける役を担当する、という形はどうでしょう。」

ア田中さんの案には反対ということですね。

イ朝は集まれない人がいるという意見が出ました。その点を補う方法を考えましょう。

ウ朝練習は大切なので、この案は取りやめにしましょう。

エ小川さんの意見は案と関係がないので、次に進みます。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

「大丈夫です。」この短い言葉を、あなたは一日に何度使うだろうか。重い荷物を持った友人に「持とうか」と聞かれて、「大丈夫」と答える。ぶつかった相手に「けがはない」と聞かれて、「大丈夫」と答える。同じ言葉でありながら、前者は「手伝いはいらない」という断りを、後者は「問題はない」という安心を伝えている。

このように、①言葉の意味は、言葉そのものにあらかじめ決まっているのではなく、使われる場面によって決まる。辞書には、「大丈夫」の意味として「あぶなげがなく、安心できるさま」とある。しかし、わたしたちは、辞書に載っている意味だけで会話をしているわけではない。話し手の表情や声の調子、直前のやりとりなど、②言葉の外にある手がかりを、無意識のうちに組み合わせて、相手の意図を読み取っているのである。

ところが、この読み取りは、いつも成功するとは限らない。たとえば、ひとりで階段を上る人に「手伝おうか」と声をかけて、「大丈夫」と返されたとき、あなたは、それを断りと受け取るだろうか。それとも、遠慮と受け取るだろうか。③どちらにも読めるときには、すれちがいが生まれやすい。

言葉の意味が場面で決まるのなら、すれちがいを防ぐ工夫は、話し手と聞き手の双方にできる。話し手は、④相手がどう受け取るかを想像して、言葉を足すことができる。「今日は荷物が軽いから大丈夫」と言えば、断りの意図は伝わりやすい。一方、聞き手は、わからないときに「本当に平気」とひと言たずねて、確かめることができる。

言葉を、気持ちを運ぶ入れ物のように考えると、中身は入れ物に入ったまま、そのまま相手に届くと思いがちである。しかし実際には、⑤言葉は、話し手と聞き手が、手がかりを出し合い、確かめ合いながら、いっしょに意味をつくりあげていくものなのである。

（注）式辞（しきじ）……儀式で述べる、あいさつの言葉。　意図（いと）……何をしようとするかという考え。

問1 ①「言葉の意味は、言葉そのものにあらかじめ決まっているのではなく、使われる場面によって決まる」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア同じ「大丈夫」でも、断りを表すときと安心を表すときがあり、場面が変われば意味も変わるということ。

イ辞書に載っている言葉の意味は、現代ではほとんど役に立たなくなっているということ。

ウ「大丈夫」という言葉は、会話の中で使うと、いつも断りの意味になるということ。

エ話し手の気持ちは、言葉よりも表情を見るほうが、いつも正確に伝わるということ。

問2 ②「言葉の外にある手がかり」とありますが、本文で挙げられている「言葉の外にある手がかり」として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア話し手の表情や声の調子、直前のやりとり

イ辞書に載っている言葉の意味

ウ話し手の年齢や、住んでいる地域

エ聞き手が以前に読んだ本の内容

問3 ③「どちらにも読めるときには、すれちがいが生まれやすい」とありますが、筆者は、すれちがいが生まれやすいのはなぜだと考えていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、手がかり、思いこみの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「相手がどう受け取るかを想像して、言葉を足す」とありますが、これにあたる行動として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア友人に「大丈夫」と返したあと、「手伝いはいらないけれど、ありがとう」と、理由を添える。

イ友人に「大丈夫」と返したあと、相手が気づくまで、何も言わずにいる。

ウ友人の「大丈夫」が断りか遠慮かわからないので、「本当に平気」とたずねて確かめる。

エ友人の「大丈夫」を、いつも断りの意味だと決めて受け取る。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア冒頭で、身近な「大丈夫」の使い方を挙げ、読者を話題に引き入れている。

イ「たとえば」を用いて、読み取りがうまくいかない場面を具体的に示している。

ウ筆者が行ったアンケートの数字をもとに、「大丈夫」の使われ方の変化を分析している。

エ最後の段落で、「入れ物」というたとえを使い、ふつうの考え方と筆者の考えを対比している。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア言葉の意味は、話し手と聞き手が手がかりを出し合い、確かめ合いながらつくっていくので、すれちがいを防ぐには、双方の工夫が大切だ。

イ言葉は意味があいまいで役に立たないので、会話はできるだけ避け、文章で伝えるべきだ。

ウ辞書の意味を正しく覚えさえすれば、誤解は防げるので、辞書を読む習慣をつけるべきだ。

エすれちがいの責任は聞き手にあるので、聞き手は、いつも確かめる努力をしなければならない。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。口語訳をつけていない部分もあります。）（16点）

昔、ある人、庭に一本の梅を植ゑて、朝夕これを愛しけり。（昔、ある人が、庭に一本の梅を植えて、朝晩これを大切にしていた。）ある年の春、大風吹きて、花、残らず散りぬ。（ある年の春、大風が吹いて、花が残らず散ってしまった。）主、散りたる花を見て、①いたく嘆きけり。

隣なる翁、これを聞き、②笑ひて言ふやう、「花の散るをのみ見て、③物も食はず嘆くは、あやしきことなり。花は散りてこそ実を結ぶものを。」と。

主、これを聞きて、げにもと思ひ、涙をぬぐひて枝を見上ぐれば、小さき青き実、早くも見えけり。（主人は、これを聞いて、なるほどと思い、涙をぬぐって枝を見上げると、小さな青い実が、もうついていた。）

夏の末、実、大きくなりて、主、喜びて人々に分けけり。（夏の終わり、実が大きくなって、主人は喜んで人々に分けた。）④終はりを嘆かんより、その先を待つこそ、まことの心なれとぞ。

（注）主（あるじ）……その家の持ち主。翁（おきな）……年老いた男の人。いたく……ひどく。げにも……なるほど。まこと……本当。

問1 ①「いたく嘆きけり」とありますが、このときの主の様子として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア花が散ったことを悲しみ、深くため息をついて、落ちこんでいる。

イ花を散らした大風に腹を立て、はげしく怒っている。

ウ花が散るのを見て、これからの手入れの方法を思案している。

エ花が散ったことを人に知らせようと、大声で呼びかけている。

問2 ②「笑ひて言ふやう」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問3 ③「物も食はず嘆くは、あやしきことなり」とありますが、この「あやしき」の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア不思議でおかしい

イ身分が低く、いやしい

ウ美しく、りっぱだ

エいとしく、かわいらしい

問４ ④「終はりを嘆かんより、その先を待つこそ、まことの心なれ」とありますが、この話から読み取れる教えを、次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（４点）

（以上で問題は終わりです。）